

介護老人保健施設 しおさい

症 例 概 要 利用者氏名：K・E 様（90代 女性 要介護4）

利用期間：平成30年 2月～現在

病名：急性硬膜化血腫・外傷性クモ膜下出血・頭蓋骨骨折・第6頸椎椎弓骨折・
腰椎圧迫骨折

利用サービス：長期入所

経過：息子さん娘さんと在宅生活をしていましたが、畑仕事中に3メートル下のコンクリート地面に転落。病院にて加療後、リハビリ目的で他の病院に転院され当施設に入所となる。

内 容

平成29年9月、家の前の畑より3m下のコンクリート地面に転落し救急搬送。急性硬膜下血腫、外傷性クモ膜下血腫、頭蓋骨骨折、第6頸椎椎弓骨折、腰椎圧迫骨折を受傷。保存的加療の期間が長くなり、廃用症候群で歩行困難となりました。リハビリ専門の病院に転院したものの、高次脳機能障害・認知機能の低下が著しく、思うような結果が得られず地元の病院へ転院し、平成30年2月車椅子での入所となりました。入院中神経因性膀胱にてバルーンカテーテル留置され、高次脳機能障害などの影響からリハビリの介入も困難、廃用症候群は更に進行し関節拘縮も発生していました。

入所後、まずしおさいに慣れていただくこと、周囲の方と交流を持っていただくことを目的に、少しずつ日課での離床時間を増やしていきました。次第に他利用者との交流をもつようになり、数週で一緒に体操をしたり談笑されるようになりました。しかしベット上ではバルーンカテーテルをひっぱったり、オムツを外すなどを繰り返されていました。リハビリ病院等でもカテーテル抜去にトライしたようでしたが、いずれも失敗に終わり再挿入したという情報がありましたが、可能性を信じ、しおさいでも挑戦することにしました。カテーテルを抜去し、腹部圧迫やトイレ誘導を何度も行い、自然排尿を促す試みを実施しました。4月には自然排尿も可能となり、ご本人からも「すっきりするねえ」などの言葉も聞かれ、移乗動作も格段に上達し、現在は軽介助レベルで移乗可能となっています。トイレでの誘導を始めたことによりオムツ外しもなくなり、「皆さんに迷惑をかけるから水は控えてたけど、今はいっぱい飲めるわよ」という嬉しい言葉も聞けています。認知機能が低下していても、私たちのことを気遣って水を控えていたKさんの気持ちに、私たちは大きく心を動かされました。今後もKさんがしおさいを利用して本当に良かったと思っていただけるよう職員一同力を合わせて更に安心・信頼される看護・介護・リハビリテーションを提供し続けたいと思います。